

支援の隙間にいる人たちへの アプローチ

特定非営利活動法人
レスキューストックヤード

広域大規模災害時のボランティア活動の体制検討ワークショップin高知
－2日目－
平成26年2月20日（木）－21日（金）

「支援の隙間にいる人たち」とは？

1. ハイリスク者

▼医療・福祉の専門対応が直ちに必要な人

2. ハイリスク予備軍

▼緊急性は高くないが、元気でもない人

▼元気ではあるが、役割や活力を自分で見
いだせていない人⇒一番目立たない

ハイリスク者の例

- ・重度の障がいがある
- ・健康状態が著しく悪い
- ・持病(糖尿病・高血圧・心疾患など)が悪化している
- ・重度のアレルギーがある
- ・高度な医療・福祉の対応が必要

他には？

3

ハイリスク予備軍の例

- ・立ち上がる、座る、歩くなどの動作が危険
- ・放送や掲示板での情報が理解できない
- ・炊き出しが食べられない
- ・落ち着かず、常にうろうろしている。急に大声を出したり走り回ったりする

他には？

【医療・福祉だけの視点だけでは、取りこぼされてしまう人】

- ・いつもじっとしていて動かない
- ・ぼんやりしていて、何もすることがない
- ・困りごとがあっても遠慮や気兼ねで相談できない

他には？

4

課題発見から課題解決に向けた アプローチを考える

ビデオ映像 2007年3月25日 能登半島地震 避難所の様子

5

状況確認

▼生活環境の確認

居住スペース、寝床、トイレ、食事、入浴、衛生状況など、ハード面の問題点を読み取る

▼アウトリーチ(対話)

1日の暮らしのスケジュール、不安、困りごと、希望、周困との関係性など、ソフト面の問題点を読み取る

6



寝床環境



入浴環境



トイレ環境



食事環境



写真: 社会安全研究所

事例 2002.3.25能登半島地震 『避難所巡回チーム』の活動

- 穴水町社協が災害ボラセンを設置。普段から何かあれば二つ返事で動いてくれる地元ボランティアに協力の声掛け
- 何かしたいけど、私たちに何ができるのかわからない・ボランティアの悩み
- 外部支援者より「震災関連死」の可能性について情報提供。この町から絶対に出したくない・・・
- 今何が必要かとにかく避難所を見て、直接住民と話してみよう！

⇒アウトリーチ開始



何か困っていることありませんか？では何も出てこない。安心と信頼の下地がなければ、つぶやきは聞こえてこない。下地づくりのためには、アイデア・動ける人・繋がりが不可欠



炊き出しプロジェクト



たべさいんプロジェクト

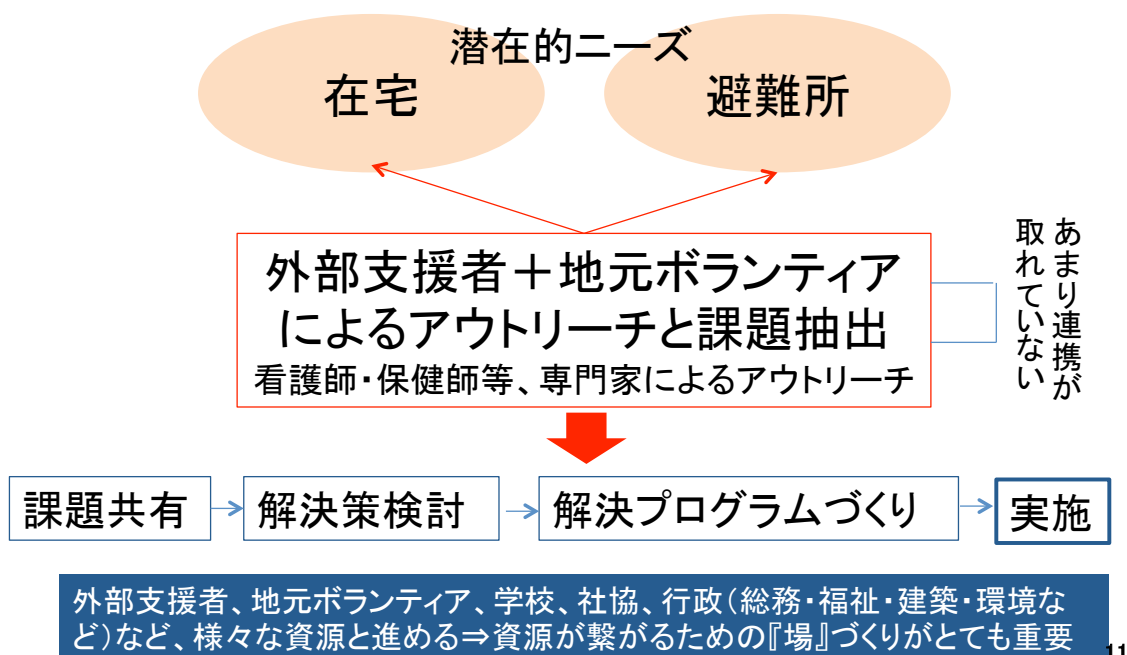


足湯プロジェクト



移動茶の間プロジェクト

課題抽出と対応までの流れ



過去の被災地の事例：課題共有から実施まで

【状況読み取り・対話内容】

1. 3日間おにぎりとカップスープだけ。野菜が食べたいがこれ以上わがまは言われたい
2. 毛布2枚や座布団を敷布団代わりに5日間過ごしている
3. トイレが和式で用が足せない。1週間便秘が続いている
4. 子どもが避難所の中を走り回り落ち着かない
5. いつもは椅子で過ごしている人が、たたみの上に座りっぱなしになっている
6. 日中は高齢者ばかり。特にやることなくぼんやりと過ごしている人の姿が目につく
7. 赤紙は必ず取り壊さなければならないのか？家の補修をどんな段取りで進めていけばいいのか？

被災された方々の気持ち

アウトリーチを続けていく中で、避難所には、次のような気持ちで毎日を過ごしている方が多くいることに気づきました。

- ①心細さ、不安、心のよりどころがない
- ②健康の維持ができない(運動不足など)
- ③気持ちが楽しめるもの、元気になれることがない
- ④仮設住宅での新生活に対する不安

13

企画を実施・継続するため地元応援団の必要性

※穴水町の場合は、ボランティア連絡協議会が支援の要

※緊急会議2回開催(今後支援活動の担い手となる社協・ボラ連・行政・保健師・ケアマネージャーなどが参加)

(話し合いのポイント)

- ・被災者の生の声やボランティアセンター、行政の活動状況の共有
- ・今後予測される問題点の提示
- 被災経験者、被災地でのコーディネーター経験のあるNPOが担い手
- ・「やらされてやる(受身)活動」ではなく「自分が必要と思うからやる活動(主体的)への展開
- ・自治会ができること、ボラセンができること、行政ができることのすみわけ

- ①問題点の整理
外部コーディネーター
(社協や災害ボラコ)
- ②活動のメニュー出し
地元地域住民
- ③プランニング
地元コーディネーター
(社協や災害ボラコ)



活動メニューを
考える

14

行政と連携したニーズ

2. 毛布や座布団を敷布団代わりに5日間過ごしている

⇒畳・仮布団の手配

3. トイレが和式で用が足せない。1週間便秘が続いている

⇒ポータブルトイレ手配。当日の夕方には設置

15

東日本大震災 洋式便座手すり付き階段の設置



協力：岐阜県大垣市MODAN工房より提供 ¹⁶



和式から
洋式便座へ



段差の解消



外部支援・地元ボラと連携したニーズ

1. 3日間おにぎりとカップスープだけ。野菜が食べたいがこれ以上わがままは言われない



民生、健康づくり推進委員
栄養士らが協力し合い、1週
間分の炊き出しメニューを考
案。避難所で動ける人は一
緒に調理に参加。

19

2. 子どもが避難所を走り回り落ち着かない

- ・お絵かき
- ・ドッジボール
- ・かくれんぼ
- ・折り紙
- ・電車ごっこ
- ・学習支援

カンガルー隊

お母さんのストレス解消

- ・保育士などの専門家による
子どもの一時預かり
- ・母親たちの交流の場づくり

ピカピカ隊

子どもと遊んでいる中学生の中から、「ボランティア
をしたい。友達も連れていきたい」という声が上がった

子どもが主体となったボラ活動

- ・避難所内の掃除
- ・炊き出しの配膳
- ・食事のお膳づくり
- ・足湯の手伝い



子ども支援チームの高校生・大学生

20

3. 赤紙は必ず取り壊さなければならないのか？家の補修をどんな段取りで進めていけばいいのか？



木耐協による耐震診断

家の相談会の実施



4. いつもは椅子で過ごしている人が、たたみの上に座りっぱなしになっている
5. 日中は高齢者ばかり。特にやることなくぼんやりとすごしている人の姿が目につく



ものづくり



イベントの開催など



新潟県中越地震
ホットちゃん



岩手・宮城内陸地震
ガンバルべあ〜

阪神・淡路大震災
まけないぞう



被災地から被災地へ
心をつなぐ
メッセンジャー

仮設住宅での生活に対する不安



入居説明会
応援グッズ配布



仮設への引越し支援





子どもたちのお楽しみ会



うるうるパックの配布



時間の経過を追ってさらなるアウトリー等へ



頑張りたくても頑張れない人を支える
と「あなた」の会話、同じ目線、触れ合いと温もり、笑顔と涙、誰でもできる役
今求められる支援は何かを、足湯の「つぶやき」から読み解く



最後に

- 支援の隙間に陥りがちな人を見つける視点を持つ人を増やす
- 誰がどう解決できるのか？を見極め、プログラム化できるコーディネート力を養う、それができる人を把握しておく、やることに対する自信をつける
- 受援力(よそ者の力を活かす力)を養う
- 頑張ろうとする人達を応援し、頑張りたいくても頑張れない人を支えていく両輪の支援の在り方を模索する